

当病院で活動されているドクターに、各専門分野での取り組みや、医療への想いを語っていただきます。

十和田市立中央病院 院長

vol.21

杉田 純一すぎた じゅんいち 先生

専門：外科 得意分野：消化器外科、乳腺外科



— 先生は福島県のご出身とかがいました。これまでのご経歴をお話いただけますか？

出身は福島県いわき市です。きょうだいは妹がいます。高校までは地元の県立磐城高等学校で過ごしました。大学は京都府立医科大学へ進学し6年間は京都府民を体感しました。医師免許を取得後、研修を経て東北大学の消化器外科、昔でいう第一外科に入局しました。そして大学院が終わった翌年に十和田市立中央病院に赴任となりました。十和田に来たときは34才くらいでしたから、そこからずっと20年以上十和田に住んでいます。今やすっかり十和田人とわだじんです。

— お医者さんになるきっかけは何でしょうか？

医学部に進むと決めたのは高校3年の時なので人より遅いかもかもしれません。最初は工学部に進もうと考虑たりしましたが、将来の事を考えたとき、祖父が「医者になれよ」と言い残したことが心に浮かんできて。実家は酒屋を営んでいましたが子ども心に、どんな酔っ払いにでも頭を下げているのが嫌で、商売を継ぎたくなかったのですが、祖父も孫には違う道に進んでほしかったのかもかもしれません。



— 外科を選んだ理由があればお聞かせください。

高校は地元で御三家と言われる進学校だったので勉強にはそれなりに自信があったのですが、いざ医学部に入ってみると自分より賢い人がたくさんいて(笑)。その頃は、内科系は賢い人が行くものだというイメージがありました。大学ではバレーボール部に入っていましたが、外科の先輩が多く在籍していて誘われたというのもあります。医学部の部活なんて同好会みたいなものですが。

——外科医をされていて、やりがいを感じるどころなど教えてください。

このドクターインタビューで他の外科の先生もおっしゃっていましたが、自ら手術して、というところですね。病気の診断にやりがいを感じる医師もいると思いますが、手術することで自分が患者さんを治したという実感が得られるのは外科系の醍醐味かと思います。元気に回復してくれた患者さんを見てほっこりするのが至福です。

——先生がご研究をされていることや、取り組みについてなど教えてください。

長年現場で臨床医として活動してきましたので、研究とは言えないかもしれませんが、がん治療に携わる中で抗がん剤や他の治療薬については勉強を怠らないように心がけていました。世界では日々新しい薬や治療手段が研究されていますので、効果的な使い方などの情報を得てできるだけ遅れず、取り残されないよう現場に生かしていかななくてはならないと常日頃考えています。地方病院の現実として、先進医療や先端的な臨床研究が出来るわけではなく、限界がありますが、今できる最良の治療を地域に提供する取り組みは、一番やってきたことだと思っています。



——今年度より当院院長を務められていますが、院長として大切にしていることはどんなことですか？また、どんな病院を目指されていますか？

院内で働く人たちが、働く中で楽しみを見つけ、皆朗らかに働いている病院でなければ良い医療を患者さんに届けられないと思っています。日々のつらい仕事もやらされていると思いながら行うよりも、嫌なこともあるでしょうが、人のため、患者さんのためになっていると実感することで、働き甲斐につながっていくのではないかと考えます。周りの人たちと仲良くしてトラブルがあったらともに乗り越える、その先には一番大事な患者さんの回復やご家族の喜びにつながるはずです。スタッフだけでなく病院にかかわる全ての人がウェルビーイング（Well-being）を感じられる、そんな病院でありたいと考えています。

——休日にリフレッシュできる趣味や、凝っていること、特技などありますか？

一番の楽しみは、子供の成長を見ることです。長男はサッカー、娘は弓道、次男はバドミントン部で、それぞれの試合を見に行ったり応援するのが楽しみです。数年前コロナで見に行けなくなった時は寂しかったですね。自分の趣味としては、競馬です。昔から勝負事が好きで、当たったり外れたり…当たると楽しくてリフレッシュになりますが癖になるとろくなことが無いので適度に楽しんでます。1レース1,000円くらいですね。もちろん家を傾けるほどはやりません(笑)。特技は、いつまでも寝ていられることです。

—— 食事の仕事のパワーの源と思いますが、好きな食べ物、嫌いな食べ物を教えてください。

食べ物としては刺身とか、肉の中では牛肉が好きです。素材は何であれ、手のかかった、凝った料理が好きです。懐石料理でもフランス料理でも。とにかく職人が腕によりをかけて作った料理が食べたくになりますね。嫌いなものは納豆です。とにかく匂いがだめです。朝の病棟回診の時、朝食のメニューが納豆の時はしっかりマスクをさせていただきます(笑)。

—— 最後に市民の皆さんへメッセージをお願いいたします。

遠くに行かずとも地元で良い治療が受けられる、そういう病院であるよう職員一同頑張っています。わざわざ東京や仙台など大都市へ行かなくても、最適な治療を提供できる体制を整えていますので安心して受診してください。また、診断して当院以外での検査、治療が必要な場合は迅速に最適な病院に紹介させていただきます。

十和田市に来てから 20 年以上、移り変わりを見てきましたが、市内飲食店、商業施設の減少など街が寂しくなっている気がして少子高齢化、人口減少をひしひしと感ずることがあります。これは日本全体の課題と言えるかもしれませんが、この地に住む人がいる限り、医療を提供し続けることこそが我々の責務と考えています。これまでは医局制度があった事でそれなりに地域医療が維持されておりましたが、これからは当院自ら医療人材を育成し、魅力を発信し、医療資源を持続させていかなければなりません。今や世界の共通語になった「SDGs」＝「持続可能な」病院でありつづけられよう、全方位全力を尽くしたいと思っています。今後ともどうぞよろしく申し上げます。



所属学会：日本外科学会、日本消化器外科学会、日本乳癌学会、日本内視鏡外科学会、日本癌治療学会、日本臨床外科学会

資格情報等：東北大学医学部 臨床教授、日本外科学会 外科専門医、日本消化器外科学会 専門医、日本乳癌学会 乳腺認定医、日本がん治療認定医機構 がん治療認定医、ICD 制度協議会 インфекションコントロールドクター、ALTA 注（ジオン®注）四段階注射法講習会受講済、検診マンモグラフィ読影認定医、医師臨床研修指導医養成講習会受講済、プログラム責任者養成講習会受講済（臨床研修指導医）